

## 西三河南部生態系ネットワーク形成フォーラムを開催しました！

2019年12月14日(土)午後1時から、西尾市役所にて「西三河南部生態系ネットワーク形成フォーラム」を開催しました。

当日は、一般の方々を始め41名の参加者がありました。フォーラムでは、専門家による基調講演、協議会員や地域の企業等による取組発表やポスターセッションを行い、西三河南部地域の自然の重要性と生物多様性保全活動の重要性、また保全活動を行う方々の考え方等を、参加者の方に広く知っていただく場となりました。

基調講演では、人間環境大学特任教授(京都大学名誉教授)の谷誠先生から、「地球活動と森林との相互作用から環境を考える」と題した講演がありました。谷先生の専門は森林水門学で、ライフワークとして、山地斜面における雨水の流出機構や、森林土壌の河川流量緩和効果を研究されています。

講演では、森林活動によって水のリサイクルが保たれていることにより、内陸でも森林生育が可能な湿潤気候が維持され、大規模な循環構造が成立しているという研究結果についてのご説明がありました。環境に依存し、なおかつ、生物を資源として利用して暮らす我々人間が、環境が劣化しつつある現在、森林のレジリエンスの意義を理解することの必要性についてもご説明を頂きました。

取組発表では、アイシン精機(株)西尾ダイカスト工場の内藤浩三氏から、「西尾工場の環境保全活動と地元小学校とともに進める生態系保全活動」と題して、同社の生態系保全活動についての発表がありました。地元の小学校とともに、排水の放流先である朝鮮川での水生生物調査を行う等、企業の先進的な取組事例を発表頂きました。

次に、「特定外来生物「コヒガタアシ」駆除の取組」と題して、碧南市において国内で初めて確認されたコヒガタアシの駆除活動について、碧南市環境課の白井寛人氏と愛知県自然環境課の矢島正幹氏による共同発表がありました。

最後に、「2020年に向けた愛知県の生物多様性保全の取組」と題して、愛知県自然環境課主幹の來住南輝氏から発表がありました。愛知目標の目標年である2020年を翌年に控え、COP10以降の世界の生物多様性保全の流れを踏まえ、愛知県の取組について発表がありました。今後も、生態系ネットワーク協議会を核とした県内のネットワーク形成の推進や、SDGsを切口とした若者世代との連携等により、生物多様性保全の取組を進めていくことの重要性について説明がありました。

本協議会では、今後も引き続き、西三河南部地域の豊かな自然を再認識していた

だき、生物多様性保全の取組へ展開していけるような活動を計画していきます。ぜひ  
皆様のご参加をお待ちしています。



開会挨拶:協議会会長 片山 幸士 氏



基調講演:人間環境大学  
特任教授 谷 誠氏



取組発表:アイシン精機(株)



取組発表:碧南市・愛知県



取組発表:愛知県



会場の様子